

第18回特別展示

新収資料展

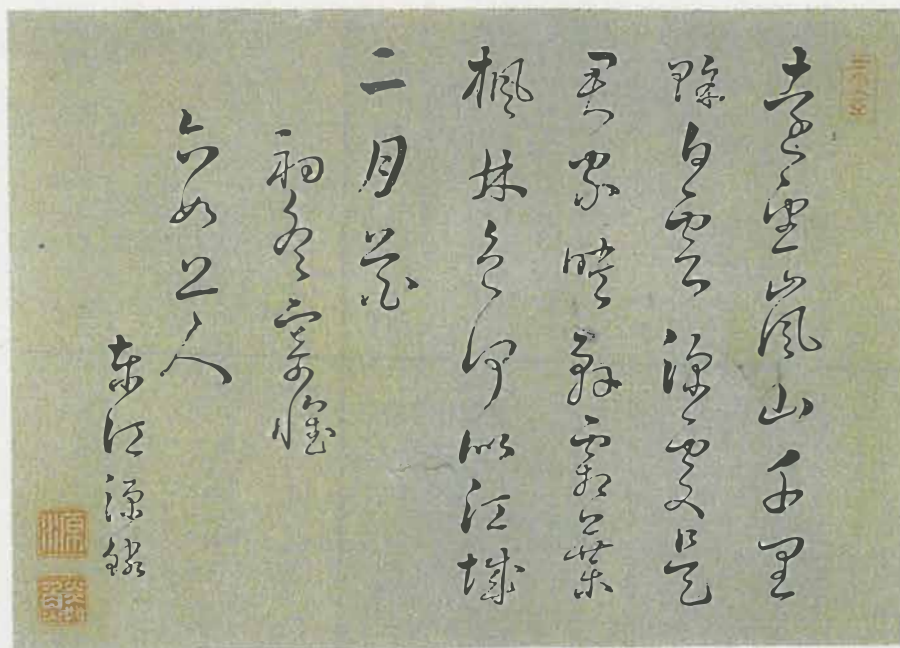
— 昭和60～62年度期 —



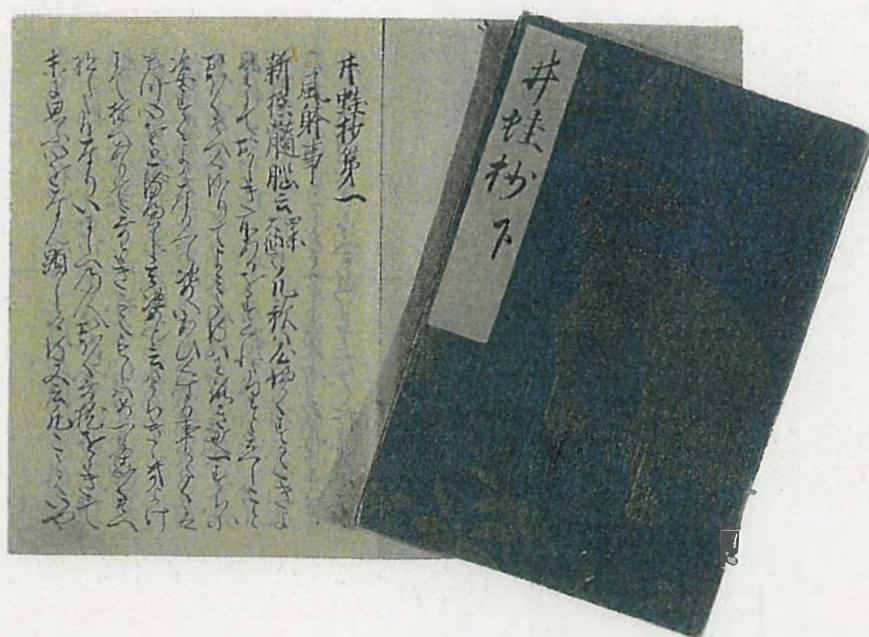
6 河内三砭亭書画帖（寒葉齊）



6 河内三砭亭書画帖（宋紫石）



6 河内三征亭書画帖（東江源鱗）



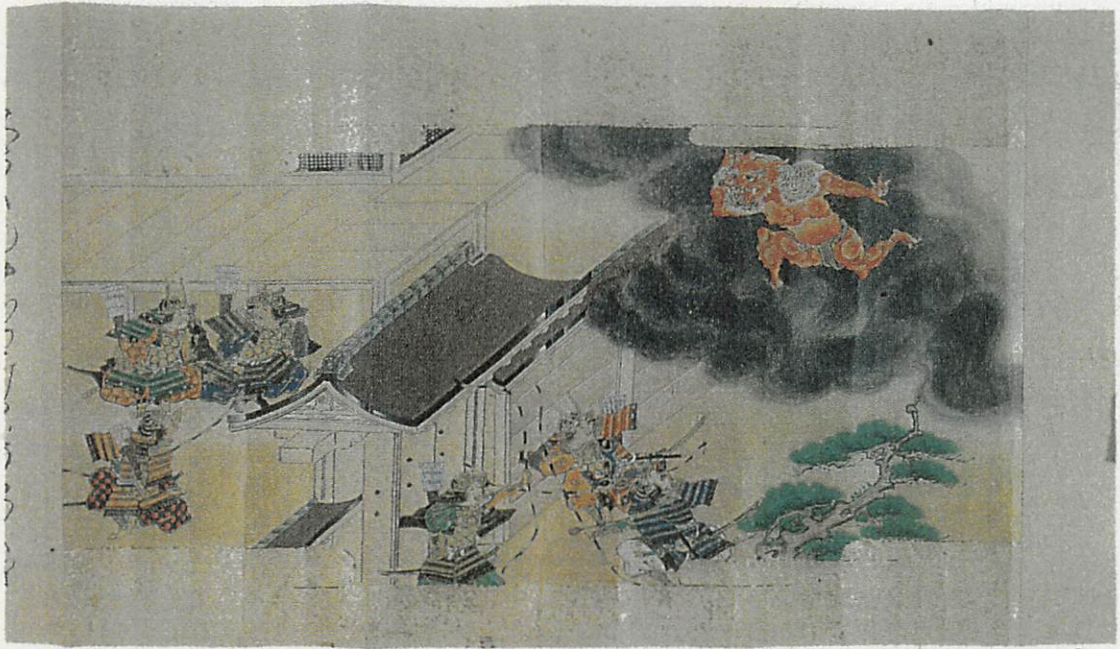
2 井蛙抄

[illegible]

7 儒者書簡集（山陽書簡）

[illegible]

7 儒者書簡集（杏園書簡）



4 大黒舞



5 小敦盛

はしがき

国文学研究資料館では、江戸時代以前の国文学を中心とする古典文献資料のマイクロフィルムによる収集を続けるかたわら、可能な範囲内で古典籍原本（写本・版本）の収集にも努め、併せて研究者の利用に供しております。

これらの古典籍原本を、常設展示（年四回。それぞれ約三ヶ月間）・特別展示（年一回。約二週間）として一般に公開し、研究と普及とのために微力を尽してまいりましたが、第十八回特別展示を十一月一日（水）より十五日（水）まで開催いたします。

今回の特別展示では、昭和60～62年度期に収集した古典籍原本より代表的なものを選んで展示することにいたしました。本展示が多くの利用者の研究の進展に寄与するところがあれば幸いです。

平成元年十一月一日

国文学研究資料館長 小山 弘 志

凡 例

一、この目録は、国文学研究資料館第18回特別展示「新収資料展——昭和60～62年度期——」の展示資料解説目録である。

同展は、平成元年十一月一日（水）より十五日（水）までの日曜祝日を除く十二日間、当館展示室において開催するものである。

一、解説は参考室が担当した。一々お断わりしなかったが、諸先学の研究に負うところが多く、記して感謝したい。

目次

14	酒伝童子(写)……………5	30	古今要覧稿(写)……………9
13	増鏡(写)……………5	29	頼家蔵書目録(写)……………9
12	古今集註(写)……………5	28	友干冊(写)……………9
11	栄花物語(刊)……………4	27	本朝酔菩提(刊)……………8
10	後撰和歌集(写)……………4	26	絵本吾嬬鏡(天明七年刊)……………8
9	古今和歌集(写)……………4	25	潤色栄花娘(刊)……………8
	(二)一般新収資料	24	風流神代巻(元禄十五年刊)……………8
8	周易(刊)……………3	23	調和前句付巻(写)……………7
7	儒者書簡集(写)……………3	22	あみだかんきん抄(寛文十年刊)……………7
6	河内三丘亭書画帖(写)……………2	21	堪忍記(寛文四年刊)……………7
5	小敦盛(写)……………2	20	惺窩先生文集付倭歌集(享保二年刊)……………6
4	大黒舞(写)……………2	19	棠陰比事物語(刊)……………6
3	一葉抄(写)……………1	18	清水物語(刊)……………6
2	井蛙抄(写)……………1	17	朝鮮征伐記(刊)……………6
1	澄印草等(写)……………1	16	小敦盛(刊)……………6
	(一)新指定貴重書	15	小敦盛(刊)……………6

39	龍龕手鑑 (刊)	11
38	長恨歌抄 (刊)	11
37	三体詩抄 (写)	11
36	九經注 (写)	10
35	三教指帰注 (寛永十一年刊)	10
34	三教指帰私記 (写)	10
33	法相宗二卷抄 (写)	10
32	臍の茶口 (嘉永四年刊)	9
31	月花通鑑 (安永七年刊)	9

(一) 新指定貴重書

1 澄印草等 ちやういんそうとう 縦一五・三×横二三・五 写一冊 唱導書

99 64

鎌倉時代の古鈔本。安居院流と考えられる新出の唱導書。「澄印」は澄憲法印の略か。枅形、列帖装。養和二年二月二十五日仁和寺宮五部大乘経供養の法会次第（表白文を含む）を巻末に収載。

2 井蛙抄 縦二三・〇×横一六・〇 写二冊

99 65

歌学書。頓阿著。表紙は紺色の金欄表紙に虎と笹の模様で見返しに金箔を散らす。題簽左肩「井蛙抄上（下）」。
列帖装。本文墨付、上六六丁、下七三丁。片面十行。巻末に「右頓阿之抄二條家之目足也／努々不可外見卒尔書写鳥跡可恥々々／明応甲寅（三年）暮秋上旬」、「右令一覽畢」（それぞれ堯恵・牡丹花と伝え、花押似書を付す）、「源家親依所望重而校合了／文き三年二月日法印」の奥書あり。伝宗祇筆。箱入。上冊の巻一〜三は通例の本と同様だが、「同類事」を巻五として立てず、巻四の「一同名々所」の後に「一同類事」として続けている。その結果、通例巻六としている「雑談」を「第五」とし、全五巻となっているが、内容的には一応完本である。ただし「雑談」は歌学大系本解題にいう前半すなわち一〇七頁までで、その点木版本と同様。室町末期頃写。

3 一葉抄 縦二七・七×横二一・八 写一冊

99 71

研究。三条西実隆編。三条西家の紋を浮出した紺表紙（後補）。題簽左肩「三條西実隆公筆 一葉抄」。袋綴。丁数は二二丁で遊紙なし。片面十四行。一首一行。奥書・識語なし。『万葉集』の短歌を漢字交じり平仮名書きとし、天

象上下・時節・地儀上下・草・木・鳥・獸・虫・衣服・雜物・神祇・人倫に部類したもので、同名異書が多いため『万葉一葉抄』ともいう。本来十巻であるが、本書は巻二と巻三の一部の残闕本であり、巻二と巻三とは紙を別にせず直ちに続け書きにし、巻三のはじめには巻三地儀上の目録があるが、巻二は目録を欠いている。ただし諸本によってみるに、巻二は天象下・時節の全部と考えられ、巻三は「山」から「野」の五首目までで以下を欠く。本書は残闕本ではあるが、三条西家旧蔵の実隆自筆本であり、また写本の脱落二十八首を補う点でも注目される。

4 大黒舞 縦三三・三×全長一一九一（上巻）・一〇七五（下巻） 写二軸

99 66

御伽草子。題簽「大こくまひ 上（下）」。「縹色地に花唐草文様の金欄表紙。見返しは金布目紙。料紙は金泥下絵入りの鳥の子紙。上巻二七紙（うち絵六枚、七紙）、下巻二四紙（うち絵五枚、五紙）。字高二六糎。伝本は少なく、天理図書館本、蓬左文庫本など六本が知られるのみ。本書は新出本で天理図書館本と近い関係にある。本書巻末の「えたをならさぬ御代なり……君のめくみは有かたや」は、本書と天理本に存し、赤木本には見えない。絵の位置も天理本と対応する。江戸前期の制作。

5 小敦盛 写二軸 絵巻

99 70
1~2

奈良絵巻上下二巻、室町末期写。紺地に金箔散らし、銀泥で霞等を描く紙表紙。料紙は間似合。上巻、縦二八・二糎、字高二五・五糎、横六六九糎（表紙、軸付をのぞく）、一四紙（うち絵六枚）。下巻、縦二八・五糎、字高二五・五糎、横七三九・五糎（同上）、一九紙（うち絵八枚）。平敦盛の討死と捨子にされた遺児が法然上人に育てられ、母に出会い、父敦盛の幻と会う物語。『室町時代物語大成』所収の赤木文庫蔵「小敦盛絵巻」の本文と比較して顕著な相違はない。

6 河内三疋亭集書画帖 折本一帖 三六・五×三〇・五

99 68

雲鶴文様布表紙。皆川淇園序（文化二年五月）。表裏各四十面に詩箋、歌稿、発句短冊、画、書簡その他、絹本紙本とりまぜて計二三八点が貼りこまれている。京阪の文人・画家を主とし江戸の文人を含む。蒐集者三疋亭は河内山田の田中伊右衛門か。（水田紀久氏、『混沌』第七号）長期にわたる蒐集物を序文のものされた文化二年頃この巻冊に纏めたものか。詩稿・画（賛）の分量が圧倒的であるが、水田氏の紹介された片山北海、那波魯堂の木村兼葭堂宛書簡など、当代上方文壇の事情を垣間見る事の出来る断片も看過できない。多くは小品であるが、比較的大ぶりの宋紫石、建部綾足の尤品が目につく。

7 儒者書簡集 卷子本三卷

99
67
1~3

題簽「書簡帖一（三）」。蒐集者は未詳。旧西条藩士新名某家に存したもの（旧蔵者箱書）。卷一に十六通、卷二に十三通、卷三に二十三通、計五十二通。江戸中期から幕末の儒者文人の書牘を収める。尾藤二洲、中井董堂、大田南畝、岡本花亭、松崎慊堂、佐藤一斎、仁井田南陽、近藤篤山、祇園南海、永田観鷺らを始めとして大沼竹溪、榊原草沢など化政期文人の書簡も交る。

8 周易 版本六卷三冊 二八・二×二〇・二

99
72
1~3

魏王弼注。古活字伏見版。表紙は栗皮色無地の表皮を残した改装、題簽欠。匡郭四周双辺二一・二×一五・五。柱刻は「周易卷一（一六）丁数（巻毎に）」「慶長十年星集乙巳孟夏初五日鹿苑西笑叟承兌」の跋がある。「大垣文庫」ほかの蔵書印。巻一の三二丁表匡郭外に活字で「乗正作承」とする。

(二) 一般新収資料

9 古今和歌集 縦二〇・五×横一五・三 写一冊

サ2
31

和歌。紀貫之ほか編。梅花を描いた緑表紙で、見返しは無地金箔。題簽左肩「古今和歌集」。装丁は列帖装。本文墨付一六八丁で、仮名序は片面八行で一行二十四字程度。本文は片面九行で、和歌一首二行。冒頭に仮名序、巻末に真名序を有するほか、巻二十の本文の次に墨滅歌を記す。該本筆者の奥書識語の類はなく、貞応二年七月廿二日の本奥書を持つ。本文は定家本のうちの貞応二年本。室町後期の写。

10 後撰和歌集 縦二四・四×横一八・〇 写二冊

サ2
29

和歌。大中臣能宣ほか編。金茶の金欄表紙で、見返しは金箔に撫子の散らし。外題なし。左肩に題簽剥落の跡あり。列帖装。内題「後撰和歌集」。墨付上冊八一丁、下冊一〇七丁で、片面十行、和歌一首一行。上下冊ともに本奥書・書写奥書の類を有せず、本文系統・伝写経路を知りたいが、後撰集非定家本諸本のもつ四五一番歌「神無月時雨ばかりは降らずして雪がてにさへなどかなるらん」の歌を欠くので、定家年号本系統、おそらくは天福二年本系の末流本文と思われる。定家年号本にはふつう書写年時を付載するが、本書ではそれを省略したのであろう。本書の特色として、かなりの量の作者勘注・本文書き入れが見られる。なお、列帖装のため、上下冊ともに綴じ直しの際に錯簡を生じている。江戸中期以前の書写か。

11 栄花物語 縦二六・七×横一九・六 刊二十冊

サ4
43

歴史物語。古活字版。表紙は栗皮色無地。外題は、打付書で左肩に「栄華（花）物語」とあり、各冊二巻ずつ所収の巻名を記す。各冊遊紙一丁をおき、内題「栄花物語」とし、所収巻名の目録を付す。尾題・柱刻はなし。片面十一行で、毎行約二一字。字高約二二種。『古活字版の研究』に所載の図版と同版。「元和寛永中の間の開版と認められる」という。改装裏打。印記「岡田真之蔵書」。

12 古今集註 縦二七・五×横一九・一 写五冊

サ2
34

注釈。頭昭著。表紙は黄膚色の紙表紙に菊の雲母刷り。題簽左肩「古今集頭昭抄」。袋綴。内題は「古今和歌集抄」。各冊末尾の「良淳」（平間長雅）の鼎形朱印と墨付紙数注記から、長雅手沢本と知られる。宝永頃の写か。序注末尾にのみ弘安五年雅有奥書あり。各巻の丁数は、八三、五九、六八、六八、八五丁で、片面十行、和歌一首一行。本文は、第一～四冊（序～巻十六）は雅有本頭昭注だが、第五冊（巻十七～二十、奥書）は頭注密勘本文の取り合わせ本である。

13 増鏡 縦二六・八×横一九・二 写二冊

タ4
45

歴史物語。茶無地の紙表紙。題簽中央に、「水鏡」を見せ消ちにして「益鏡 上」とあり、下冊にはない。袋綴。内題なし。丁数は上冊が七一丁、下冊が八七丁で遊紙はなし。片面十二行で一行二十八字程度。下冊末に「寛永五六
月吉日水鏡上下／仕悪筆写之 種忠」とあり、上下冊とも冒頭に「藤波家蔵書」と「岡田希雄蔵書」の印がある。本来三冊本であったと思われるが、現在中冊を欠いている。いわゆる増補本系で、巻五「うち野の雪」に新しい事項が書き加えられたほか、第七「煙のすゑく」の一卷を付加している。また下冊冒頭は「第十三」とし巻名を欠く（「さしくし」巻にあたる）が、その後「第十二 うらちとり」「第十三 秋のみ山」と続いている。

14 酒伝童子 縦三四・四×本文全長九四四 写一軸

ヨ1
99

御伽草子。紺地水玉の紙表紙。料紙は緑・青・白などの色変わりで、金銀泥で草花の下絵がある。本文第一紙は他本による補写。『室町時代物語大成』所収の各本と異同がある。寛永頃写。

15 小敦盛 版本一冊 一五・四×二二・六

タ4
46

縹色地に遠山霞と水辺の草花を描く紙表紙。題簽欠。表紙中央に「敦盛 完」と直書。全二三丁。御伽草子二十三編の一つ。

16 こあつもり 版本一冊 二二・六×一五・六

ナ7
31

栗皮色の紙表紙（改装）。匡郭四周单边（一八・八×一四・三）。内題「こあつもり」。柱刻「こあつ 一（十二）」。

全一二丁。行数一七行。六段本。

17 朝鮮征伐記 版本九卷九冊 二七・六×一七・五

ナ4
356
1~9

表紙藍色。匡郭四周单边（二一・五×一五・五）内題「朝鮮征伐記」、卷三のみ「朝鮮征伐」。柱刻「征伐 一（九） 丁数」。刊記「萬治二年己亥六月十九日二条通鶴屋町田原二左衛門」 藏書印「西莊文庫」「をばま」あり。

18 清水物語 版本 大本二卷二冊 二七×一八 仮名草子

ナ4
360
1~2

朱色表紙。題簽「清水物語上」「清水物語下」。内題「清水物語」^{きよみづものがたり}「清水物語下向」^{きよみづものがたりけかう}。柱刻「清水上」「清水下」。下卷本文末に刊記「寛永拾五^{戊寅}十月吉旦開之」。

19 棠陰比事物語^{とういんひじものがたり} 版本 大本五卷五冊 仮名草子

ナ4
351
1~5

中国の桂万栄作の裁判小説集『棠陰比事』を翻訳したもの。無刊記ながら寛永年間の初版本。内題「棠陰比事物語^{たういんひじものがたり}」。柱刻「卷之一（五） 丁数」

20 惺窩先生文集付倭歌集 縦二八・三×横一七・五 刊十冊

ナ6
8

藤原惺窩の漢詩文集と和歌和文集。漢詩文集は惺窩の曾孫藤原為経の編。砥紛色の紙表紙。外題「惺窩先生文集」

とあって、首巻及び一巻から十二巻までの七冊から成り、慶安四年の序を持つ。内題・尾題「惺窩先生文集巻之一（十二）」、序題「御製惺窩先生文集序」、目録題「惺窩先生文集総目録」、柱刻は「御製序」、「惺窩先生文集

系譜畧」、「惺窩先生文集 行状」、「惺窩先生文集 窩記」、「惺窩先生文集 跋」、「惺窩先生文集 凡例」、「惺

窩先生文集 目録」、「惺窩先生文集 巻之一（十二）」。匡郭四周双边（縦一八・六×横一二・一）有界で、序と

跋は片面五行、ほかは九行。和歌和文集は外題「惺窩先生倭歌集」とあって、一巻から五巻までの三冊からなり、寛永二十年の序を持つ。内題「惺窩先生倭調集」で、字高一九糎。序は片面八行、本文は十行。漢詩文集の序の後に享保二年の跋が付されており、惺窩の漢詩文集及び和歌和文集を享保二年に併せて再版したものとわかる。

21 堪忍記^{かんにんき} 版本 大本八巻八冊 仮名草子

ナ4
352
1~8

浅井了意作。内題「堪忍記」、柱刻「堪忍記 巻一（八）」 題簽「堪忍記巻八」のみあり。刊記「寛文四曆甲辰五月良日／洛陽書林／前川茂右衛門開板」。万治二年版に次ぐ第二次版。改刻で挿絵も半数以下に減る。

22 あみだかんきん抄 版本 大本一冊 仮名草子

ナ4
350

寛文十年刊。絵入本。目録題「あみたかんきん抄」。柱刻「かんきん 一（十二）」。刊記「寛文十庚戌年卯月吉辰 通油町 本問屋開板」。内容は、観念の事（無常すゝめの事）。法然一枚起請の事、勤めの作法の事、善導大師発願の文の事、光明遍照の事、願以しくどくのもの事からなる浄土宗系の教化書。

23 調和前句付巻 縦一七・六×全長五六〇・〇 写一軸

≡1
91

俳諧。題簽・内題なし。岸本調和点評の前句付清書巻。元禄前期頃のものか。冒頭部分を欠き、現状は未装丁。前半に三十一名の連衆が試みた「五句付」一巻を収録。巻尾に点者調和の署名と「壺瓢軒」「俳林」の印記があり、続

く句引の後に「三月十七日 清書所 觚堂」とある。ここまでの体裁は通常の清書巻と同様である。後半はやや趣を変え、前半とは別の「五句付」興業で勝者となった九九・嘯心各人の付句（前半は省略）を収める。

24 風流神代巻 版本六巻六冊合二冊 二六×一八・三

ナ4
362
1~2

大本、藍色表紙。匡郭四周单边一八・八×一三・九。内題「風流神代」 柱刻「風流 一（一六） 丁数」 本書は巻六末の二丁半（跋文の部分）が新しい補写、その末尾に「元禄十五載次壬午孟春吉且大坂高麗橋壱丁目 野村長兵衛開板」（補写）とある。巻二は入れ本。

25 潤色栄花娘 版本 中本七冊 浮世草子 一八×一二・五

ナ4
369
1~5

漁柳作。内題「潤色栄花娘一（一五）」「潤色栄花娘道中の巻上（下）」。「寅のむつまじ月のはじめ 誹者 漁柳誌」の自序あり。「寅」は明和七年か。刊記なし。印記「準」

26 絵本吾嬬鏡 版本 半紙本三巻三冊 絵本二一・四×一五・二

ヤ6
186
1~3

万象亭（森島中良）編、北尾政美圖。原表紙砥粉色。本文单边一七・六×一三・六。原題簽双辺表紙中央一五・七×二・四「絵本吾嬬鏡 上（中）」「絵本あつま鏡 下」。序「丁未孟春／根元江戸前隠士／万象亭述（印）」。江戸の名所を見開二十一面、半丁四面に描き、各面に狂歌師・戯作者等の戯文・狂詩・狂歌等を掲げる。巻末に「江戸名所取組／月池隠士戯作」三丁半を附録とする。奥附「畫工 北尾三三政美圖（印）（印）／筆者天柱門人花女君美書（印）（印）／天明七丁未歳孟春壽梓／東都油町／仙鶴堂／鶴屋喜右衛門」。

27 本朝醉菩提全傳 版本 半紙本二二・五×一五・八（序、巻之一一巻之八下）十冊 読本

ナ4
365
1~10

山東京傳著、歌川豊国画。前帙（序、巻之一一巻之五・六冊）、後帙（巻之六一巻之八下・四冊）。表紙は前帙六冊は鶯色、後帙四冊は栗皮色。匡郭四周单边一四・二×一三・二。目錄題「新刻本朝醉菩提全傳」、序題「稻妻表紙後

編本朝醉菩提全傳」、内題「稻妻表紙後編本朝醉菩提」、柱刻「本朝醉菩提」、尾題「本朝醉菩提」。『昔語稻妻表紙』

の後編。本書は後刷本で刊記は「天保十二辛丑孟春新刻／書林 大阪心斎橋通博勞町 河内屋茂兵衛／江戸 小傳馬町三丁目 丁子屋平兵衛」

28 友干 写本（自筆）二冊

ヤ5
268
1~2

頼春水・春風・杏坪の自筆稿本を主として山陽・景讓の諸雜稿をも合綴。刊本未収のものが多し。春水在坂時の若書き、杏坪の和文等もみえる。頼元緒・頼潔二氏の識語がある。

29 頼家藏書目錄 写本（横本）一冊 一四・三×二三

ヤ5
199

頼春水自筆。家藏の書籍総六八七部をイロハの部立に配列した。和漢・刊写混じる。処々に各本の来歴の小書あり、『日本詩文 一』に「京師武川幸順序忌諱ニフレ後ニハ其序ハ不載因テ写取附ス」、『松蔭日記 写本七』に「江戸加川元厚ヨリ写此跋西山拙斎作匿名ナリ」等々。

30 古今要覽稿 写本二冊 考証 二八×二〇

ヤ9
170
~171

屋代弘賢編。二十部門五百六十冊からなる叢書の中の地理部江戸莊廻建記。石井盛時の自筆初稿本並びに再稿本。書入れ、墨消、貼紙多し。

31 月花通鑑 縦二二・六×横一五・八 刊五冊

ナ4
370

浮世草子。大雅舎其鳳著。砥粉色表紙に雲母刷り。題簽左肩「月花通鑑」。内題「月華通鑑」（卷二以後「つきはなつがん」とルビ）。柱刻「月花（巻数）（丁数）」。匡郭四周单边（縦一八・五×横一四・〇）片面十二行。「安永七戊戌年正月吉旦」とする錢屋善兵衛・吉文字屋市兵衛・吉文字屋次郎兵衛の刊記あり。絵入り本。「本堺伊」の印記あり。

32 臍の茶口 縦一七・五×横一二・〇 刊一冊

ナ4
363

十方舎一丸画作。貞信画の錦絵表紙。外題「臍の茶口 滑稽おとし咄」。全十七丁で柱刻は「臍茶」。匡郭四周单边（縦一三・六×横一二・〇）。嘉永四年宇野松栄堂近江屋善兵衛の刊記あり。二十一話の落咄と彩色刷の絵を収める。咄はほとんど新作か。『国書総目録』未載。序に一丸の初作「喜美談語」の名が見えるが、所在は不明。

33 法相宗二巻抄 写本二巻一帖 二一・二×一五・〇

ヤ4
41

共表紙。巻末に識語「弘安十年五月八日書寫了 沙門元然」「文明十四年八月……」あり。興福寺の学僧良遍が老母のために法相唯識の大意を述べた概説書で、仁治三年（一二四二）以前の成立。文体は平俗な和文で、譬喩を多用し、鎌倉旧仏教では珍しい仏教教理書。本書は鎌倉末期写本である。

34 三教指帰私記 写本三巻三冊 二四・五×一六・二

ヤ4
43
1~3

共表紙。内題「三教指帰卷上（中、下）私記」本書は「三教指帰」の室町時代の仮名交りの注釈。国憲の講説に於ける私注か。「天正三年隆盛乘賢房」の書写。

35 三教指帰注 縦二八・〇×横一八・五 刊七冊

ヤ4
42

漢詩・注釈。表紙は栗皮色無地。題簽左肩に「三教指帰注 一（一七）」。袋綴。各冊丁数は、三七・三七・三九・四七・三四・四一・四三丁。注釈は片面一三行。柱刻「三教注 一（一七）（丁附）」。刊記「于時寛永十一^{癸未}年極月良日」。匡郭四周单边（縦二一・四×横一五・三）。本書は空海『三教指帰』の平安末に成った注釈書で、覚明の撰述とされる。書眉に書き入れなどもある。

36 九経注 縦二五・八×横一九・二 写一冊

ワ6
12

漢詩・注釈。表紙は薄茶無地。外題は左肩に墨で「九経註」とあり、内題なし。袋綴。墨付九三丁。字高二一糎。片面八行。本書は九経（おそらく大田錦城の「九経談」のごとく、易・書・詩・左伝・大学・論語・孝経・中庸・孟

子を指す)の要句を抜き、これを仮名交じりで注解したものである。室町末・近世初期頃のものか。伝本稀れである。印記「游焉館図書」。

37 三体詩抄 縦二二・五×横一六・二 写二冊

79
41

漢詩・注釈。栗皮色無地の紙表紙。外題「絶句私 上／絶句註 下」。尾題「三体家法詩」。装丁は包背装。「寛永元年 神無月八日書畢／右筆貪道沙門良重 年七十一才」との識語あり。三体詩は宋の周弼の編集した唐代の詩集。我国では中厳円月の帰朝より三体詩講義が始まったとされ、三体詩抄の諸本は十数系統存する。本書は寛永元年の書写で、五山僧の注の系譜を引くもの。

38 長恨歌抄 縦二七・五×横一八・〇 刊一冊

78
14

漢詩・注釈。古活字版(寛永年間刊)。表紙は栗皮色無地。題簽、左肩に剥落の跡あり。序題・内題「長恨歌」、尾題「長恨歌抄 終」。柱刻は「長恨歌(丁附)」。匡郭四周双边(縦二一・四×横一五・〇)で、無界十一行本。丁数は全三五丁で、刊記はない。川瀬一馬『古活字版の研究』にいう第四種本にあたる。長恨歌に注を付した抄物の一。「□禅房印」の印記あり。

39 龍龕手鑑 縦二八・四×横二〇・六 刊八冊

71
16

字書。遼の行均撰。古活字版(元和年間刊)。黄膚色の紙表紙に唐草模様。題簽は卷七にのみ、左肩に「龍龕手鑑 七」とあり、他はすべて剥落。内題・尾題とも「龍龕手鑑卷第一(〜八)」。柱刻は「龍龕卷序」、「龍龕卷目錄」、「龍龕卷一(〜八)(丁附)」とある。匡郭单边(縦二二・九×横一七・一)、有界十行で、序は一行十六字、本文語集は一行四段配字にする。全卷にわたって裏打ちを施す。刊記なし。

国文学研究資料館特別展示目録 12

新収資料展——昭和60、62年度期——

平成元年十一月一日 発行

編集 国文学研究資料館

整理・閲覧部参考室

発行 国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町一―一六―一〇

TEL 〇三―七八五―七二三―

印刷・製本 株式会社 三協社

〒164 東京都中野区中央四―八―九

TEL 〇三―三八三―七二八一

ISBN4-87592-030-X